

第4期高幡地域アクションプランの進捗状況等について

高 幡 地 域 本 部

令和2年9月17日（木）

高幡地域アクションプランの進捗状況等

R2.9.17

高幡地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全 37 項目の地域アクションプランについて、実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議と進捗管理を行うとともに、各種アドバイザーを派遣するなど個別事業に応じた支援制度の活用により、それぞれの目標の達成に向けて取り組んでいる。

上半期では新型コロナウイルスの感染拡大によるイベントの中止や観光施設の休業による観光客の減少、商談会等の営業活動の中止など地域内の多くの事業者が影響を受けている。新型コロナウイルスの終息は見通せない状況にあるが、各市町においても独自の支援を行うなど、地域経済の維持に向かった取り組みを行っている。

農業分野では、中土佐町において四万十川の豊かな自然条件を活用して生産される大野見米のブランド化を進め、まとまりのある生産・販売体制を構築し、消費者に選ばれる米産地づくりを推進している。

また、四万十町においては、四万十栗のブランド化と関連産業を含めた地域産業クラスターの形成を図るため、栗の生産拡大とともに、平成 29 年度に新たに整備した加工施設で栗のペースト加工に取り組み、四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培では、次世代園芸団地で栽培されているトマトの病害虫防除対策を確立し、安定生産を図るとともに、加工品の販売促進や輸出の検討を行い、次世代団地の経営強化に取り組んでいる。

畜産分野では、四万十町において、地域の生産者が四万十ポークブランド推進協議会を設立し、安心・安全な豚肉を安定的に提供できる体制を再構築し、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す取り組みを進めている。

林業分野では、経営コンサルタントの助言を得ながら、平成 29 年度に整備した四万十ヒノキ展示・商談施設を活用したヒノキ集成材工場の販売力強化や新商品の開発に取り組んでいる。

水産業分野では、須崎市において、養殖マダイの生産者グループと民間事業者、漁協が連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷事業者の販売戦略に左右されにくい販売力の構築に取り組んでいる。

商工業分野では、中土佐町において、地産外商に取り組む町内のグループや事業者等で構成する協議会を設立し、お互いの強みを生かしながら中土佐町全体のブランド力を強化する地産外商に向けた取り組みが始まっている。

観光分野では、四万十町において道の駅とおわと 6 月にオープンした四万十川ジップラインを四万十町十和地域の体験型観光の拠点として、周辺のアクティビティ施設等と連携を図ることで、交流人口の拡大を目指す取り組みが始まっている。

また、津野町においては、四国カルストエリア一帯のブランド化を行い、知名度を高めることで交流人口の拡大と町内への周遊を促し、津野町全体の活性化を図ろうと天狗荘、せいらんの里のリニューアルの取り組みを進めている。

(2) 具体的な動き

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.1 大野見米のブランド化 (中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>・おおのみエコロジーファーマーズ</p>	<p>[指標]</p> <p>エコ米販売量</p> <p>出発点 (R元) : 11.3t</p> <p>到達目標 (R2) : 12 t</p> <p>目標 (R5) : 15t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>エコ米販売量 (R2.6月末) : 0t ※9月から集荷予定</p> <p>○生産組織の体制充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営活動 (R2.6月末) : 総会 1回 <p>○環境保全型栽培技術の確立と栽培面積の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圃場指導等 (R2.6月末) : 3回 <p>○高付加価値米の販路拡大と販路の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米コンクールへの出品 (R2.6月末) : 2 圃場 (予定) ・教育現場との交流活動 : 0回 <p>※新型コロナウイルス関係で、執行委員会の開催、県立大学との交流活動に伴う計画の協議、田植体験等の活動が先送りとなった。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○検査等級や食味値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R元年作ではエコ米の基準 (食味値 80 以上) がクリアできなかった ⇒再度、巡回指導等による基本的な栽培技術の徹底 <p>○生産等拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化等により会員(生産者)が6人に減 (前年△1人) ⇒知名度の向上 (米コンクール入賞や外部との交流活動等) 及び水稲生産者に対するエコ米栽培への誘導
<p>■No.2 梶原産キジ肉の生産・販売の拡大 (梶原町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・梶原町雉生産組合</p> <p>・梶原町</p>	<p>[指標]</p> <p>販売額</p> <p>出発点 (H30) : 1,458 万円</p> <p>直近値 (R元) : 1,659 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 1,600 万円</p> <p>目標 (R5) : 2,200 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>販売額 (R2.6月末) : 861 千円 (対前年同期比 : 57%)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○品質の向上と出荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熟成肉の製造 (R2.6月末) : 30kg ・孵化率の向上 : 54.7% (対前年同期比 : 100.7%) <p>○販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話やFAXによる営業を強化 ・SNSでの情報発信 <p>○キジ肉消費向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内外でのイベント中止 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業力の強化 ⇒SNSでの情報発信をさらに強化する。 ガラを活用した新たな販路の確保、ゆすはらジビエとの連携を強化し、県外の飲食店での販路開拓を目指す ・認知度向上及びブランド力の向上 ⇒「小さな拠点ふるさと応援事業」に参加、梶原町の特産品として町ゆかりの方への加工品の送付 ⇒他地域(いの町、愛媛県鬼北町)と連携した「きじの日」の制定によるきじの認知度向上
<p>■No.3 梶原産肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化(梶原町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(一社)津野山畜産公社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町 	<p>[指標]</p> <p>(1)販売額</p> <p>出発点(H30) : 1.3億円 直近値(R元) : 0.8億円 到達目標(R2) : 0.9億円 目標(R5) : 1.9億円</p> <p>(2)出荷頭数</p> <p>出発点(H30) : 92頭 直近値(R元) : 75頭 到達目標(R2) : 94頭 目標(R5) : 186頭</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)販売額(R2.6月末) : 1,890万円(対前年同期比 : 80.4%) (2)出荷頭数(R2.6月末) : 27頭(対前年同期比 : 135%)</p> <p>○組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月から管理・事務能力の強化を行うために2名の職員を増加(1名定年退職補充) ・複合経営拠点化へ向けた準備を行っており、他事業の業務にも着手予定

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○飼育頭数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出産頭数が計画より増加 ・ R 元計画 120 頭⇒実績 150 頭により全体頭数は計画頭数に近づいている。一方、月齢の偏り現象がおきており、近い将来牛舎内に入れないことが懸念されている。 <p>○梶原町産牛肉の認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食において年 2 回の和牛中心のメニュー（梶原町産牛肉 100%ハンバーグ・ビーフシチュー）を全校生徒に食べてもらうことにより地域内の認知度の向上、畜産という職業への理解を行っている。また、出前授業を中学 3 年生に対して年 2 回一般社団法人津野山畜産公社職員で行っている。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○津野山畜産公社の経営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現場職員だけでは、頭数管理、経営管理が出来ない。 ⇒中山間農業ルネッサンス事業により派遣される経営コンサルタントに指導を頂きながら、頭数管理、経営管理を行う。また、今後は牛舎内に収まらない月齢の牛が出てくるので子牛販売の強化や、種付けメス牛の出荷など、経営状況及び牛舎内の頭数管理を強化して適正な運営を行っていく。
<p>■No. 4 つの茶販売戦略（津野町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・ JA 高知県（高西地区）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津野町 	<p>[指標]</p> <p>(1) 茶製品販売額</p> <p>出発点（H30）：3,200 万円</p> <p>直近値（R 元）：2,214 万円</p> <p>到達目標（R2）：2,400 万円</p> <p>目標（R5）：4,000 万円</p> <p>(2) 荒茶販売額</p> <p>出発点（H30）：4,039 万円</p> <p>直近値（R 元）：3,883 万円</p> <p>到達目標（R2）：4,318 万円</p> <p>目標（R5）：5,000 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 茶製品販売額（R2.6 月末）：619 万円 (対前年同期比：130.6%)</p> <p>(2) 荒茶販売額（R2.6 月末）：2,495 万円 (対前年同期比：65.6%)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA と満天の星が連携した通販用ギフトの販売 ・茶製品の商品開発 ・SNS や新聞記事などを活用したつの茶 PR ・キリンビール連携事業「#津野山ビール時間キャンペーン」ハッシュタグキャンペーンの実施 <p>○品質管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶農家への適時摘栽の指導 ・茶工場の GAP (生産工程管理) の遵守と農家指導 ・クリーンルームの HACCP 遵守 <p>○生産の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放棄茶園の調査 ・放棄茶園の整備 ・地域おこし協力隊の募集 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における茶製品の外商機会の減少 ⇒町内観光施設、道の駅等での販売強化、SNS、マスコミ等による PR 強化 ・茶製品販売体制の強化 ⇒つの茶販売戦略の実施主体 (茶生産組合、JA、(株)満天の星、津野町) の実現可能な役割分担と連携 ・茶園の維持、再生のための担い手の確保 ⇒地域おこし協力隊の募集、兼業農家の確保
<p>■No.5 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト (四万十町)</p> <p>《《実施主体》》</p> <p>◎・四万十の栗再生プロジェクト推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)無手無冠 ・清流栗庵 	<p>[指標]</p> <p>JA 栗集荷量 (西土佐・大正・十和)</p> <p>出発点 (R 元) : 26t</p> <p>到達目標 (R2) : 32t</p> <p>目標 (R5) : 50t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>JA 栗集荷量 (R2.7 月末) : 0t ※8 月下旬から集荷予定</p> <p>○生産量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地巡回 (7 月末) : 3 回 <p>○施設機械整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十ドラマ新加工場改修設計 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗の生産出荷量の増加

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.6 四万十町畑作振興プロジェクト(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十野菜(同)</p> <p>・(株)ハマヤ</p>	<p>⇒低樹高栽培に向けたせん定技術の普及</p> <p>[指標]</p> <p>(1) 四万十野菜(同)売上高 出発点 (H30) : 8,525 万円 直近値 (R 元) : 8,365 万円 到達目標 (R2) : 9,000 万円 目標 (R5) : 1.2 億円</p> <p>(2) 四万十野菜(同)雇用者数 出発点 (H28~R 元累計) : 9 人 直近値 (R 元) : 8 人 到達目標 (R2) : 8 人 目標 (R2~R5 累計) : 12 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 四万十野菜(同)売上高 (R2.7 月末) : 2,570 万円 (対前年同期比 : 165%)</p> <p>(2) 四万十野菜(同)雇用者数 (R2.7 月末) : 8 人</p> <p>○こだわり野菜の生産安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会 (7 月末) : 3 回 ・有機勉強会 (7 月末) : 1 回 ・有機現地検討会 (7 月末) : 1 回 <p>○6 次産業化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6 次セミナー実践コース受講 (7 月末) : 1 回 ・コロナの影響により商談会への参加など外商活動が出来なかった。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物の生産拡大 ⇒栽培技術向上への支援
<p>■No.7 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十ポークブランド推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(農)平野協同畜産 ・(有)渡辺畜産 ・山中畜産 ・(農)四国デュロックファーム 	<p>[指標]</p> <p>(1) 四国デュロックファーム 加工品売上高 出発点 (H30) : 9,202 万円 到達目標 (R2) : 1.0 億円 目標 (R5) : 1.2 億円</p> <p>(2) 平野協同畜産 母豚数 出発点 (H30) : 477 頭 直近値 (R 元) : 492 頭 到達目標 (R2) : 500 頭 目標 (R5) : 500 頭</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(3) 平野協同畜産 出荷頭数 出発点 (H30) : 9,693 頭 直近値 (R 元) : 10,703 頭 到達目標 (R2) : 11,000 頭 目標 (R5) : 11,000 頭</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 四国デュロックファーム 加工品売上高 (R2.6 月末) : 2,064 万円 (対前年同期比 : 84.3%)</p> <p>(2) 平野協同畜産 母豚数 (R2.6 月末) : 498 頭 (対前年同期比 : 101.6%)</p> <p>(3) 平野協同畜産 出荷頭数 (R2.6 月末) : 2,349 頭 (対前年同期比 : 96.1%)</p> <p>○四万十ポークブランド推進協議会 ・四万十ポークブランド推進協議会 (7/27, 8/24) ・ブランド化に関する協議 (7/21)</p> <p>○(農)四国デュロックファーム ・新型コロナウイルスの影響により、商談会やイベント 等が中止となったため、十分な活動ができていない</p> <p>○(農)平野協同畜産 家畜保健衛生所とのチーム会 : 1 回</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○四国デュロックファーム ・加工・直販所の販売額の増加 ⇒イベントへの出店や営業活動等による販路の拡大及 び顧客の確保</p> <p>○平野協同畜産 ・出荷頭数の増加 ⇒衛生管理と生産体制のさらなる向上</p>
<p>■No.8 四万十次世代ハウス団地におけるト マト栽培の経営強化クラスタープロジェクト (四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十とまと(株)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)四万十みはら菜園 ・(株)ベストグロウ ・(株)四万十あおぞらファーム 	<p>[指標]</p> <p>売上高 出発点 (R 元) : 5.8 億円 到達目標 (R2) : 5.9 億円 目標 (R5) : 6.5 億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2.7 月末) : 5.96 億円 (対前年同期比 : 102%)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ・山本商店 ・民間事業者等 	<p>○生産の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホモプシス茎枯病対策検討会（6/24） 病害の発生状況の確認及び前年度の取り組みの評価 次年度の取り組みについて検討 ・農業技術センターの新規課題に申請。令和3年度課題として取り上げられる見込み <p>○低コスト省力化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業実証に関する打ち合わせ（4/23） 省力機器等の効果調査における役割の決定 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○生産の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培終了後のハウス内高温処理（蒸し込み）を行っているが、曇雨天が続くと温度が上がらず、効果が低い ・R2年度（R元.8月～R2.7月）の病害発生程度は前年度を下回り、一定の効果は見られた（四万十トマト 12.2%→1.5% 6月中旬まで）ものの、効果を完璧にするための次の一手が見つからない ⇒農業技術センターと連携した病虫害対策
<p>■No.9 「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進 （中土佐町、四万十町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町森林組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎地区森林組合 ・四万十町 ・中土佐町 ・地元事業者 	<p>[指標]</p> <p>集成材工場の売上高</p> <p>出発点（H30）：2億円</p> <p>直近値（R元）：2.2億円</p> <p>到達目標（R2）：2.02億円</p> <p>目標（R5）：3億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>集成材工場の売上高（R2.6月末）：60,543千円 （対前年同期比：214%）</p> <p>○大正集成材工場の売上拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営コンサルタント（4/13、5/18、5/25、6/16） パート出勤日数の削減等による経費削減 業務分担表を活用した、多能工化の推進 費用を掛けない営業：ネットショップ掲載 新商品の開発 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルスの影響により首都圏への新規商談がない ・営業担当職員の退職があり、営業力を強化すべきところが

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 13 津野町森林・林業再生プロジェクト (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・津野町森林組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)中成 ・津野町 	<p>弱体化してしまい対応に苦慮している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサルタント(四万十町委託)と新商品開発に取り組む <p>[指標]</p> <p>山元貯木場木材取扱量</p> <p>出発点(H30): 25,358 m³</p> <p>直近値(R元): 33,777 m³</p> <p>到達目標(R2): 27,000 m³</p> <p>目標(R5): 30,000 m³</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>山元貯木場木材取扱量(R2.6月末): 5,799 m³ (対前年同期比: 62%)</p> <p>○チップの安定供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チップ生産量(R2.6月末): 4,210 t (対前年同期比: 121%) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルスの影響による原木価格の下落及び出材量の減少 <p>⇒出口対策として、今まで取引のある製材業者等に営業活動を行う</p>
<p>■No. 14 浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大 (須崎市)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・土佐鯛工房</p> <p>◎・(株)小島水産</p> <p>◎・乙女会</p> <p>◎・(株)大東冷蔵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県漁協深浦支所 	<p>[指標]</p> <p>(1) 海援鯛出荷尾数</p> <p>出発点(H30): 6.6万尾</p> <p>直近値(R元): 6.2万尾</p> <p>到達目標(R2): 7万尾</p> <p>目標(R5): 10万尾</p> <p>(2) 乙女鯛出荷尾数</p> <p>出発点(H30): 20.3万尾</p> <p>直近値(R元): 24.1万尾</p> <p>到達目標(R2): 22.5万尾</p> <p>目標(R5): 30万尾</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 海援鯛出荷尾数(R2.6月末): 8,877尾 (対前年同期比: 48.5%)</p> <p>(2) 乙女鯛出荷尾数(R2.6月末): 33,533尾 (対前年同期比: 36.8%)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○海援鯛関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規漁業就業者の確保（長期研修受講生2名） <p>○乙女鯛関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな販売チャンネルの確保（高知かわうそ市場（ECサイト）での販売開始） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により飲食店等が休業したことから、外食需要が大幅に減少し、出荷尾数と単価が下落 <p>⇒早期の取引再開及び新たな販路の拡大に向け、新型コロナウイルスの感染終息後に開催される商談会等へ参加を予定</p>
<p>■No. 15 葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大（須崎市）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)アースエイド 	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点（H30）：5,418万円</p> <p>直近値（R元）：5,915万円</p> <p>到達目標（R2）：6,000万円</p> <p>目標（R5）：8,000万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高（R2.6月末）：725万円（対前年同期比：35.8%）</p> <p>○商品の高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉にんにくを活用した加工商品の開発：2品 <p>○インターネット等を活用した直接販売の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県販売促進事業費補助金を活用したオンライン商談サイトへの参加（7/14） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者マインド変更への対応が必要となっており、外商だけでなく地消に向けた商品開発や市場開拓が必要 <p>⇒全国的な消費動向の把握や比較的所得の低い県内市場への販路拡大のための検討を行う</p>
<p>■No. 17 大正町市場商店街活性化事業（中土佐町）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎・大正町市場組合 ・中土佐町商工会 ・中土佐町 	<p>[指標]</p> <p>チャレンジショップによる新規開業店舗数</p> <p>出発点（R元）：1店舗（H29～R元累計）</p> <p>到達目標（R2）：1店舗</p> <p>目標（R5）：2店舗（R2～5累計）</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取り組み状況]</p> <p>チャレンジショップによる新規開業店舗数：1店舗</p> <p>○中土佐町中心商店街等振興協議会における協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会（6月末）：3回 ・商店街のコロナ対策（4月～） <p>○チャレンジショップ事業による空き店舗対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SMSによる情報発信（4月～） ・チャレンジショップ新規開店（6月） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況に応じた対応 ⇒「新たな生活様式」に対応した店舗営業 ⇒「バーチャル商店街」のWeb上での構築
<p>■No. 18 中土佐町 SEA プロジェクト （中土佐町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(株)SEA プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町 	<p>[指標]</p> <p>年間売上額（施設全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> 出発点（H30）：2.8億円 直近値（R元）：2.5億円 到達目標（R2）：3.5億円 目標（R5）：3.9億円 <p>[取り組み状況]</p> <p>売上額（施設全体）（R2.6月末）：0.35億円 （対前年同期比：48.3%）</p> <p>○賑わい創出への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部運営協議（4～6月）：8回 コロナ対策、POS関連、ふるさと納税出品協議等 ・テナント協議（4～5月）：4回 コロナ対策等 ・マルシェなかとさ出品登録者訪問・ヒアリング （4～6月）：16戸 ・販売促進活動（4～6月） 町内公共施設等への移動販売（コロナ休業期間中ほか） ・ブログ、SNS等による町内情報発信（4～6月） <p>○周辺施設との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周遊促進社会実験の施行に関する協定締結（国土交通省四国地方整備局）（4月） <p>○地産外商の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット販売等を活用した外商活動（4～6月）

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>外販による売上額：2,834千円</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賑わい創出への展開 ⇒新たな生活様式に対応した店舗営業 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、道の駅なかとさ全体のイベントの企画・立案を行い、各テナントとの連携強化を図る。 ・地産外商の取り組み ⇒なかとさ do 外商連絡協議会での協議を通じ、外商について、方向性を検討していく。
<p>■No. 19 「中土佐のうまいもん食わしちゃお」 商品開発プロジェクト（中土佐町）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画・どく礼もん企業組合 	<p>[指標]</p> <p>(1) 開発する商品数 出発点 (H30)：年1商品 直近値 (H28～R元)：3商品 到達目標 (R2)：1商品 目標 (R5)：年1商品</p> <p>(2) 商品売上高 出発点 (H30)：2,242万円 直近値 (R元)：1,964万円 到達目標 (R2)：2,300万円 目標 (R5)：2,400万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 開発する商品数 (R2.6月末)：－ (2) 商品売上高 (R2.6月末)：251万円 (対前年同期比：71%)</p> <p>○中土佐の食文化を使った商品開発 ・ビンチョウマグロを活用した商品開発に向けた検討 (4月～)</p> <p>○地元や都市部等での販路開拓 ・ネットショップのリニューアル (5月) ・新規市場開拓事業 町からの委託 (6月)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人員不足 ⇒事業全体の整理及び少ない人員で効率的に運営していくための仕組みづくりが必要

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 20 「中土佐町地産外商の取り組み」 (中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・中土佐町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)SEA プロジェクト ・企画・ど久礼もん企業組合 ・中土佐町商工会 	<p>[指標]</p> <p>なし</p> <p>※なかとさ do 外商連絡協議会 (仮称) を立ち上げ、R2 年度中に指標・目標を設定する</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>○地産外商に向けた体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザー (課題一貫支援型) の導入検討 (6月) ・なかとさ do 外商連絡協議会 (仮称) 立ち上げに向けての打合せ (6月) ・産業振興アドバイザー (課題一貫支援型) との事前打ち合わせ (7/21) ・第1回「なかとさ do 外商連絡協議会」開催 (7/22) <p>○地産外商の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の頑張る人づくり事業費補助金を活用した商工会地域ブランド研究会によるセミナーの開催 (8月～) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町の外商の推進 ⇒「なかとさ do 外商連絡協議会」の継続した開催により、地産外商の方向性を確立する (KPI 等) ・地産外商に向けた体制づくり (地産外商支援員を募集しているが応募がない) ⇒HP などで地産外商支援員の募集中 ・地域ブランド研究会を支援する地域おこし協力隊を募集しているが応募がない ⇒地域おこし協力隊を募集中
<p>■No. 22 津野町地産地消・外商販売戦略 (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(有)津野町ふるさとセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)満天の星 ・(一財)天狗荘 ・津野町 	<p>[指標]</p> <p>(1)直販所総販売額</p> <p>出発点 (H30) : 1.36 億円 直近値 (R元) : 1.28 億円 到達目標 (R2) : 1.37 億円 目標 (R5) : 1.40 億円</p> <p>(2) (株)満天の星売上</p> <p>出発点 (H30) : 2.07 億円 直近値 (R元) : 2.62 億円 到達目標 (R2) : 2.0 億円 目標 (R5) : 2.49 億円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取り組み状況]</p> <p>(1)直販所総販売額 (R2.6月末) : 0.33 億円 (対前年同期比 : 98.5%)</p> <p>(2) (株)満天の星売上 (R2.6月末) : 1.30 億円 (対前年同期比 : 83.6%)</p> <p>○出荷量の確保と高付加価値農産物の出荷 ・農業アドバイザーの配置 : 1 名</p> <p>○津野町産品の外商力の強化 ・サトイモを活用した商品の開発 : 3 品</p> <p>○津野町まるごと総合商社の設立と安定経営 ・商社設立の際に中心となる町内 3 社の財務分析と新型コロナウイルス感染拡大による影響調査 (4 月～) ・3 社ヒアリング及び役場との情報交換定例会の実施 (4 月～) ・商社設立によるメリット・デメリットの比較検討(8 月)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・コロナ禍における販促機会の減少 ⇒・消費者ニーズの変化に対応した商品づくりと販路の確保、災害食としても対応できるサトイモ缶詰商品の開発 ・町内資源をフル活用した生産・流通・加工販売体制の再構築 ⇒津野町まるごと総合商社化に向けた調査および事業連携の在り方の協議、ふるさとセンターの方向性を見直しと店舗の整理</p> <p>・直販農家等、生産者の維持、確保 ⇒地域おこし協力隊の募集、農業アドバイザーの配置による助言・指導</p>
<p>■No. 23 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備 (四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町 ・(株)あぐり窪川</p> <p>※地域産業クラスター関連 (四万十のうまい豚クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>豚まん等販売額 出発点 (H30) : 9,300 万円 到達目標 (R2) : 1.8 億円 目標 (R5) : 2.33 億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>豚まん等販売額 (R2.6月末) : 2,031 万円 (対前年同期比 : 117.9%)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○加工施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県版 HACCP 第3 ステージ認証取得 (R2.6月) ・旧加工場の改修 (R2.12月完了予定) <p>○商品開発と販路開拓：新加工場関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)あぐり窪川との定例会 (月1回) ・商談会等への参加：0回 ※コロナにより全て中止 <p>○地域資源の発掘と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生姜の病害早期発見を目的とした圃場巡回やサンプル採取等 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の販売額の増加 (ネット販売の強化、イベント等) ⇒セミナー受講やアドバイザー派遣など ・旧加工場の衛生管理の強化 ⇒高知県版 HACCP 認証取得
<p>■No. 24 四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大 (四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)ぶらうん 	<p>[指標]</p> <p>加工品売上高</p> <p>出発点 (H30)：5,210万円</p> <p>直近値 (R元)：6,925万円</p> <p>到達目標 (R2)：9,426万円</p> <p>目標 (R5)：1.27億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>加工品売上高 (R2.6月末)：1,670万円 (対前年同期比：110.5%)</p> <p>○商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発：1品 (四万十キッシュ) ※町内食肉加工業者と連携 ・新商品開発に関するセミナー受講等を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となったため未受講 <p>○販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により商談会やイベント等が中止となったため、十分な活動ができていない <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品の安定生産及び販売体制の強化 ⇒高知県版 HACCP 第3 ステージ認証取得 (第2ステージの認証はR元取得済)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 26 高幡地域における広域観光の推進 (高幡地域全域)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・奥四万十観光協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市 ・中土佐町 ・梶原町 ・津野町 ・四万十町 	<p>[指標]</p> <p>(1) 主要観光施設入込客数 出発点 (H30) : 2,306,990 人 直近値 (R 元) : 2,269,785 人 到達目標 (R2) : 2,509,928 人 目標 (R5) : 2,646,000 人</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数 出発点 (H30) : 56,441 人 直近値 (R 元) : 57,482 人 到達目標 (R2) : 77,359 人 目標 (R5) : 64,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 主要観光施設入込客数 (R2.6 月末) : 216,187 人 (対前年同期比 : 33.4%)</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数 (R2.6 月末) : 2,463 人 (対前年同期比 : 16.3%)</p> <p>○観光情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十観光協議会ウェブサイトリニューアル着手 (7/3~) ・公募型プロポーザル審査会の実施 (6/25) ・受託事業者と契約締結(7/3) <p>○地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「奥四万十・じも旅キャンペーン」の実施 (8/1~) <p>○広域観光組織の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十観光協議会第1回担当者会の開催(書面による開催) (4/10~15) ・新型コロナウイルス感染症対策に係る観光キャンペーン(奥四万十・じも旅キャンペーン)担当者会の開催 (6/4、6/18、6/30、7/20) ・土佐の観光創生塾への参加 (6/22、7/6) ・奥四万十観光協議会第1回理事会 (7/10) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で休業や休館した施設が多く、5月末時点での主要観光施設入込数、主要宿泊施設宿泊者数はともに前年度と比べ大幅に落ち込んだため、観光産業の活力回復のための取り組みが必要 ⇒8月から実施している「奥四万十・じも旅キャンペーン」

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>ン」により、奥四万十地域の宿泊施設・観光施設などの入込数や宿泊者数の増加を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力ある観光資源の発掘、磨き上げ及び情報発信等 ⇒担当者部会と連動した体験プログラムの精査、磨き上げ、ホームページの刷新、HP・SNS更新頻度の向上、奥四万十特派員構想によるPR機能の強化 地域観光に携わる人材の育成 ⇒先進地研修の実施、SNS講習会・Googleマイビジネス講習会の開催
<p>■No. 27 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化(須崎市)</p> <p>《実施主体》 ・須崎市</p> <p>※地域産業クラスター関連(宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>交流人口 出発点 (H30) : 20,836 人 直近値 (R元) : 23,433 人 到達目標 (R2) : 22,000 人 目標 (R5) : 24,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>交流人口 (R2.6月末) : 510 人 (対前年同期比 : 13.2%)</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自粛要請等 (2/28~5/31) ・臨時休館 (4/20~5/10) ・消毒液、仕切り板や検温機器の手配 ・コモドウラノウチの縮小開催判断 内容 : 海上アスレチックのみ 期間 : 8/1~31 <p>○合宿誘致に向けた関係機関との協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県スポーツ課や観光コンベンション協会との団体誘致に向けた助成制度等についての協議 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント等の開催判断・開催方法の検討 ⇒県所管課や管轄する保健所と連携した検討を進める
<p>■No. 30 「黒潮本陣」を核とした滞在型観光推進(中土佐町)</p> <p>《実施主体》 ◎・中土佐町 ・(株)中土佐町地域振興公社</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 黒潮本陣宿泊者数 出発点 (H30) : 10,394 人 到達目標 (R2) : 10,394 人 目標 (R5) : 11,000 人</p> <p>(2) 黒潮工房入込数 出発点 (H30) : 18,652 人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>到達目標 (R2) : 18,652 人 目標 (R5) : 20,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 黒潮本陣宿泊者数 (R2.6月末) : 535 人 (対前年同期比 : 20.9%)</p> <p>(2) 黒潮工房入込数 (R2.6月末) : 2,235 人 (対前年同期比 : 37.4%)</p> <p>○施設リニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮本陣本館改修計画策定委託業務見積依頼 (7月) ・黒潮本陣コテージ改修設計委託業務見積依頼 (7月) <p>○誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅なかとさ、大正町市場商店街など関連施設との連携強化に向けた協議 (4月) ・昼間のレストラン営業開始 (期間限定) (5月下旬～) ・地場産品 (鰹、ミニトマト) を使ったメニュー開発 (6月末) : 3品 ・ブログやSNSによる情報発信 (4月～) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設リニューアル ⇒「新たな生活様式」に対応した対策を考えながら改修・工事を進めていく ・集客の促進 ⇒関連施設との連携強化に向けた計画の見直しが必要
<p>■No. 32 清流と風と歴史に会えるまち津野町 まるごと体感！～観光集客アップ作戦～ (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津野町 	<p>[指標]</p> <p>(1) 主要宿泊施設 年間宿泊数 出発点 (H30) : 10,950 人 直近値 (R元) : 10,822 人 到達目標 (R2) : 7,033 人 目標 (R5) : 14,000 人</p> <p>(2) 主要観光施設 入込者数 出発点 (H30) : 261,094 人 到達目標 (R2) : 238,854 人 目標 (R5) : 300,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 主要宿泊施設 年間宿泊数 (R2.6月末) : 74 人 (対前年同期比 : 2.6%)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(2) 主要観光施設 入込者数 (R2.6月末) : 36,059人 (対前年同期比 : 50.9%)</p> <p>○受入態勢の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天狗荘への観光コンシェルジュ機能の配置についての検討 <p>○観光商品の造成と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トックトック定期周遊・周遊レンタカーの実施 ・牧野植物園と津野町との連携事業の実施 ・田舎寿司づくり体験モニターの実施 ・田舎寿司冷凍商品化の試験 <p>○観光拠点整備と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津野町観光施設等、磨き上げアドバイザーの委託によるせいらんの里のソフト、サービス面(コンセプト、食事、料金設定など)の磨き上げの検討及び天狗荘から町内周遊観光のための天狗荘宿泊プランのオプションの検討 ・せいらんの里リニューアル実施設計(～8月) ・フォレストアドベンチャー整備・運営事業者の決定 (5月) <p>○情報発信と誘客活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報の実施(ラジオ、SNS、HP、YouTubeほか) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における入込者数の確保 ⇒新しい生活様式に対応した受入体制の見直し、奥四万十・じも旅キャンペーン等コロナ対策事業の有効活用 ・津野町観光振興計画に位置づけられた施策への取り組み ⇒重点プロジェクト(天狗荘、四万十川源流点)への対応、津野町グルメや全天候型の観光素材、体験メニューの造成、受入体制の整備(観光組織、観光ガイド等の確保・育成)
<p>■No. 33 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一財)天狗荘 	<p>[指標]</p> <p>(1) 天狗荘の年間宿泊数</p> <p>出発点 (H30) : 7,646人 到達目標 (R2) : 4,645人 目標 (R5) : 11,000人</p> <p>(2) 四国カルストの入込者数</p> <p>出発点 (H30) : 75,012人 到達目標 (R2) : 53,013人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>目標 (R5) : 110,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)天狗荘の年間宿泊数 (R2.6月末) : 63 人 (対前年同期比 : 3.3%)</p> <p>(2)四国カルストの入込者数 (R2.6月末) : 4,589 人 (対前年同期比 : 24.0%)</p> <p>○観光拠点整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天狗荘改修工事への着手 (6月) ・天狗荘サービス磨き上げアドバイザーの委託 (4月) ・プラネタリウム設備・映像プロポーザル事業者決定 (7月) ・天狗荘周辺施設の改修・整備に向けた県との協議 (6月～) <p>○受入態勢の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保・人材育成 天狗荘従業員雇用のための求人票のハローワーク登録、高知求人ネットへの掲載 (5月) 町内外への求人案内配布 (5月) 専門学校等学校訪問 (5月) オンライン相談会開催に向けた準備 (4月～) <p>○観光商品の造成と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新メニューの造成 新料理メニュー造成に向けた指導シェフの模索 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における入込者数の確保 ⇒新しい生活様式に対応した改修工事、奥四万十・じも旅キャンペーン等、コロナ対策事業の有効活用 ・リニューアル後のサービス向上のためのソフト面の強化 ⇒コンセプトに合わせた統一感のある内装、備品・調度品の整備、アメニティなどの調達、従業員マナー講座、人材育成、津野町グルメや全天候型の観光素材、体験メニューの造成、受入体制の整備 (観光組織、観光ガイド等の確保・育成)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 34 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外 	<p>[指標]</p> <p>ホビー館年間入場客数</p> <p>出発点 (H30) : 2.7 万人</p> <p>直近値 (R 元) : 3.4 万人</p> <p>到達目標 (R2) : 5 万人</p> <p>目標 (R5) : 5 万人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>ホビー館年間入場客数 (R2.6 月末) : 1,649 人 (対前年同期比 : 13.3%)</p> <p>※4/11～5/31 まで休館</p> <p>○海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋堂ホビー館改修計画打ち合わせ (5 月) <p>○ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みイベントの開催 (7/23～) <p>○関係機関との連携した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シマント補完計画の開催 (3/7～) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者の満足度アップの為の仕掛けづくり (滞在時間の延長) ⇒製作体験はコロナの影響で当面中止、安全な体験プログラムの検討 ・ホビー館施設の老朽化等 ⇒新しい生活様式に対応した改修工事の検討 ・集客力のある企画展・町周遊企画 (スタンプラリー) の開催 ⇒シン・海洋堂エヴァンゲリオンフィギュア展の会期延長 (～R3.1 月)
<p>■No. 36 四万十町オアシス風観光交流拠点施設整備事業 (四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)あぐり窪川 ・地域団体 	<p>[指標]</p> <p>道の駅※集客数 ※あぐり窪川、四万十大正、四万十とおわ</p> <p>出発点 (H30) : 43.3 万人</p> <p>到達目標 (R2) : 45 万人</p> <p>目標 (R5) : 54 万人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>道の駅集客数 (R2.6 月末) : 5.6 万人 (対前年同期比 : 46.8%)</p> <p>○観光交流拠点の整備</p> <p>基本構想策定 (R2 年度中)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・観光スーパーバイザー招聘へい：2回（6/17、8/18） →基本構想のベースとなる活用案を検討 ・産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業）活用予定 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への波及効果を生み出す仕組みづくり ⇒町及び関係事業者との協議
<p>■No. 37 ジップラインと道の駅を核とした四万十町（十和地区）の観光拠点整備事業（四万十町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅四万十とおわ 	<p>[指標]</p> <p>(1) 道の駅「四万十とおわ」入込客数 出発点（H30）：8.5万人 到達目標（R2）：9.9万人 目標（R5）：12万人</p> <p>(2) ジップライン利用者数 出発点（H30）：— 到達目標（R2）：7,200人 目標（R5）：1.2万人</p> <p>(3) ジップライン売上高 出発点（H30）：— 到達目標（R2）：1,283万円 目標（R5）：2200万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 道の駅「四万十とおわ」入込客数（R2.6月末）： 10,713人（対前年同期比：39%） ※4/21～5/6まで休業</p> <p>(2) ジップライン利用者数（R2.7月末）：1,134人 6月：221人 7月：913人</p> <p>(3) ジップライン売上高（R2.7月末）：271万円</p> <p>○道の駅「四万十とおわ」の運営強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜売り場の改修（7月～） <p>○四万十川ジップラインの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジップライングランドオープン（6/27） ※当初5/2を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により延期 ・ジップライン運営協議（7月） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「四万十とおわ」の入込客数の減少

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	⇒ジップラインや周辺観光施設との連携による集客強化 ・十和地域内の観光施設間の連携強化 ⇒研修等補助事業活用の提案

2 令和2年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）
該当なし

3 地域アクションプランの追加、修正、削除（自立、成長戦略、その他）（予定）項目
該当なし

4 県民参画に向けた取り組み

- ・土佐 MBA など各種講習会の受講周知、地産地消補助事業説明会の開催

5 相談案件：2件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/9 5/11 6/8	食品加工	須崎市内で地元産食材を活用した練り製品開発と加工機械の導入について
2	8/19	食品加工	四万十町内で地元資源を活用した食品加工施設の新工場建設に向けた検討